

琉球・沖縄  
年中行事?なんでも!  
Q&A仏壇をしまうこと、  
三十三回忌について

●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前任職  
帰依 龍照(きえりゅうしょう)

Q

今年、母の二十三回忌を終えました。わ

が家は母子家庭で、仏壇は

長女の私がつけています。

弟がいますが、諸事情で今

日に至ります。今年私は

56歳、独身です。母一人の

仏壇で、私もこの先が心配

ではあります。誰かに仏

壇を預けたいとは思って

いません。次の二十五回忌

に私は58歳。自分が元氣

なうちに三十三回忌も一緒

に終え、仏壇をしまうとい

うのでしょうか？ 仏壇

をなくしたいと考えてい

ます。お墓があるので、私

に何かあればそれで十分

だと思っています。身の回

りの整理について、アドバ

イスをお願いします。

(北谷町・Kさん)

A

沖縄では、家長制度

の名残か、嫡子・長

男がトートーメーを持つこ

とを最善とする慣習があり

ます。しかし諸事情があり

家族・親族間で円満に話し

合われている結果であれば、

カリウンチケー(仮のご案内)

ということ、弟さんでは

なく、長女のKさんご供

養されるのも、現代では珍

しいことではないようです。

2年後の二十五回忌の際、

三十三回忌と一緒にご供養

すること(併修へいしゅう)

も、現状では一つの選択肢

であると思います。

「仏壇をなくしたい」とい

うことについては、Kさんがアドバイスを求められる方によって、賛否両論があると思います。最終的には、将来について一番考えられている喪主が判断されることですので、二十五回忌と一緒に三十三回忌を終わらせたいのであれば、それのひとつの考え方ではないでしょうか。

「お弔い上げ」「上げ法事」という言葉があります。沖縄では、同じような意味として、「昇天(しょうてん)供養」「御天焼香(ウテインスーコー)」などと呼ばれています。いずれも、この法事で故人の法要を終えるという意味の言葉です。

この供養には多くの事例があります。例えば、喪主の方が高齢であることから元氣なうちに三十三回忌までお勤めしたいという場合、喪主が県外に住んでいて、法事のたびに沖縄に帰れないので、今回ですべての法事を終わらせたいという場合など。こでも各家庭の諸事情が関係するようですね。

## 一般焼香と身内焼香

この昇天供養で心得ておくことは、二十五回忌の当日に三十三回忌のお勤めを終えられるのは、一般焼香に限られるという点です。あまり知られていないかも知れませんが、法事には、

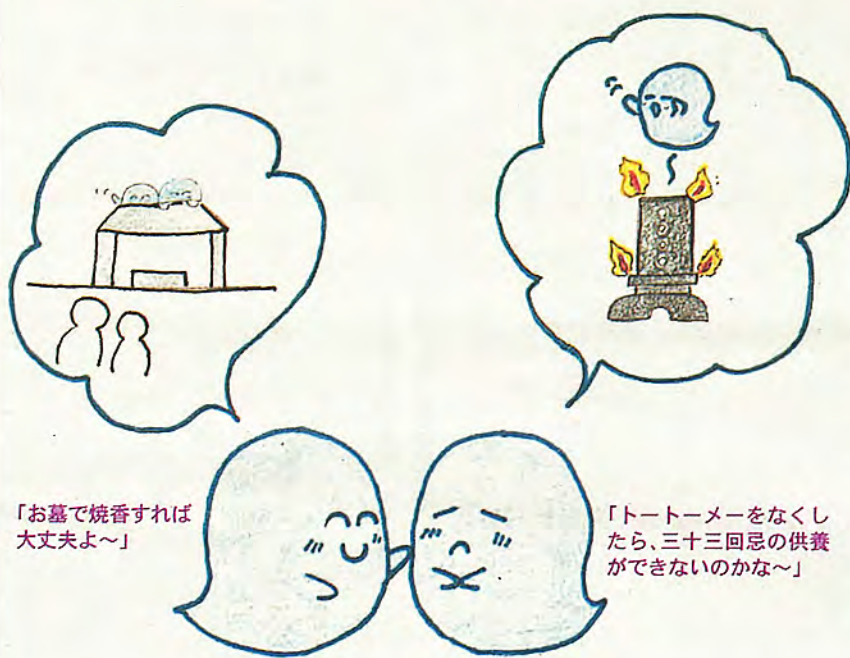
お客さまが行う一般焼香と、家族・親族による身内焼香があります。このことから、昇天供養では、お客さまに對しては「三十三回忌を終えた」と言えますが、家族・親族の身内焼香は、三十三回忌の祥月命日(亡くなられた月日)に、行っていたり、身内近な方々、少人数でも問題ありません。

身内の方で行う三十三回忌の際、すでに仏壇がなくなっていたとしても、お墓で焼香する「ハルジューコー(墓焼香)」という作法があります。この点、Kさんがおっしゃる「お墓があれば、

それで十分だと思います」という考えに一理あり、その根拠ともなりますので、ご安心いただければと思います。

Kさんは、おひとり育ててくれたお母さまに對して、よく二十五回忌近くの日まで、お仏壇を敬い、ご供養してあげましたね。三十三回忌もお勤めしてあげたいという「親を思う心」は、それ以上に「子を思う心」として、お母さまも喜ばれているのではないのでしょうか。

心温まるご相談に、私も先立ちました母のことを思い出させていただきました。



「お墓で焼香すれば大丈夫よ~」

「トートーメーをなくしたら、三十三回忌の供養ができないかな~」

イラスト：帰依ひろ子

帰依 龍照 1968年岡山県出身(満48歳) / 学歴:岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒 / 専門分野:哲学(宗教哲学) / 沖縄県内で年間多数の住宅起工式(地鎮祭)を担当しつつ、小学校~大学まで、いじめ・不登校・進学・就職に関する講演活動を行う / 著書:「琉球・沖縄 儀式・法要事典 作法・心得編」県内有名書店にて発売中 / 最近、長男に住職の家督を譲り、前任職(ぜんじゅうしょく)のご隠居さんになりました

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。